



2022年12月13日 JEPA茶話会
読書支援サービス“YourEyes”（ユアアイズ）

梶塚チハル / 株式会社スプリューム

ユアアイズとは？



読書支援サービス『ユアアイズ』は、目の見えにくくなった方、文字の認識が難しい方、文字の認識が難しい方がご自身で読書を楽しむことができるサービスです。「手許に紙の本があること」を前提とし、本のページの撮影画像を解析して自然な音声で読み上げるものです。

サービスの構成（提供しているもの）

- iPhone/iPod touch対応アプリ 『ユアアイズ』
- iPhone/iPod touch用読み取りアダプター 『YourEyesボックス』
- 読み上げ補正マークアップツール 『YourEyesボランティアツール』
- ユアアイズ ユーザー登録/情報提供サイト <http://youreyes.jp/>
- WEBブラウザ版 『ユアアイズ』（α版）

ユーザーターゲット

個人ユーザー：本を読むのが困難な方

視覚に障がいのある方、ディスレクシア（学習障害）の方

※どのような方を“読書が困難な方”としているかについては、2010年2月に策定された『図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン』別表2の「利用登録確認項目リスト」に準じています。

たとえばこんなかた

「読書が好きで自宅にはたくさんの蔵書があるが、目の中心の視野が欠けてしまい、本が読むのがつらくなってしまった。オーディオブックや電子図書の読み上げも愛用しているが、手許の蔵書ももう一度、読みかえしたい。」

「だいぶ大きくなってから失明し、点字を読むことができない。図書館の音声図書サービスを利用しているが新刊書への対応に時間がかかることがある。好きな作家の本は出たその日に買って、家族と一緒に読みたい。」

ユーザーターゲット

法人ユーザー：

公共図書館、大学図書館、視覚に障がいのある方がいる法人

※平成25年の「マラケシュ条約」採択を受けて、令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が制定。なかでも“図書館の利用に係る体制の整備等”がユアアイズの図書館導入に関わってきます。

たとえばこんな状況

「公共図書館には音声図書の貸出があるが蔵書数は限られている。図書館には拡大読書器や読み上げ機が設置されているが、自宅で読むことはできない。」

「大学の専門書には電子書籍化されていないものも多い。ボランティアが授業に合わせて音訳/点訳をしてくれているが、自分のペースで読みたい。」

実績

2022年11月1日より兵庫県の、あかし市民図書館と西部図書館で「ユアアイズ」アプリのアカウントと「YourEyesボックス」の貸出が始まりました！

そのほかのユーザーターゲット

ボランティアユーザー：

「ユアアイズ」アプリは、本の読み上げに特化し、さまざまな工夫をしています。しかし、一定の誤読、特有の固有名詞の読みの解釈、挿絵や図版を適切な説明など、AI認識による自動読み上げの現時点での限界もあります。

こうした限界を補正するようボランティアユーザーの参加をお願いしています。本を1ページずつボランティアツールで読み上げ用のテキスト化し、正しい読み方などをマークアップしていきます。

個人/法人ユーザーが本を読むときには本のISBNコードから本を特定し、特定された本に関してボランティアツールで補正されたデータがある場合にはボランティアツールデータを学習データとして補います。

たとえばこんな思い

「高校のボランティア・サークルで社会貢献したい。本好きだったお祖母ちゃんがまた本が読んでみたいと話していたのでボランティアツールを使ってみようと思う。本の読み上げを聞き、マークアップする過程で、本への理解が深まるという副産物的な効果もある。」

ビジネスモデル

- iPhone/iPod touch対応アプリ『**ユアアイズ**』
サブスクモデル：月30ページまで無料。月額支払いで有料会員
個人ユーザー、法人ユーザー
有料会員で10,000ページ/月まで読める
法人ユーザーはアカウントを複数名で利用可能
- iPhone/iPod touch用読み取りアダプター『**YourEyesボックス**』
販売：文庫が読めるサイズの“小”、単行本や新書が読める“大”
- 読み上げ補正マークアップツール『**YourEyesボランティアツール**』
無料提供
- WEBブラウザ版『**ユアアイズ**』（a版）
アプリ『ユアアイズ』の無料会員、有料会員の区分けと同じ。

3社で進めるプロジェクト

ユアアイズは2021年に（株）ポニーキャニオンの事業としてスタート。弊社はプロジェクト立ち上げから関わっていましたが、2022年4月より事業譲渡を受けサービスを再スタートさせました。当初から共に開発に携わった2社と共同で事業を進めています。また、日外アソシエイツからは読書データベースの提供を受け、共同プロジェクトとしています。



株式会社
スプリューム



株式会社
想隆社



Little Studios, Inc.

リトルスタジオ
インク株式会社



株式会社
日外アソシエイツ

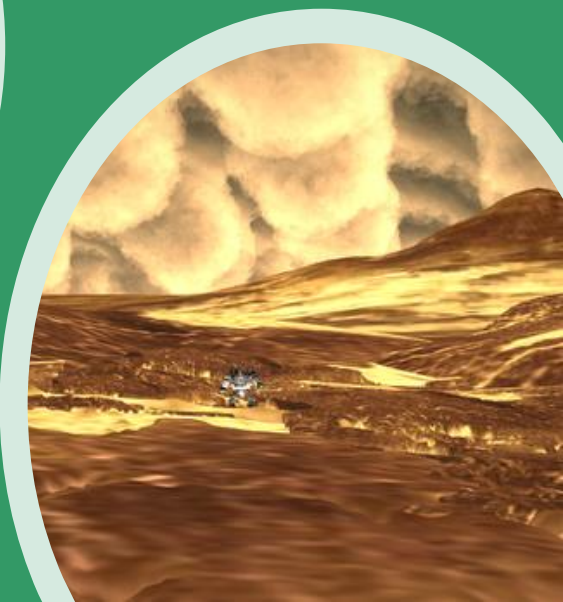
もともと株式会社スプリュームは？

『驚異の小宇宙 人体III』（1999年、NHK）のCG映像やゲームを制作してきた（株）ケー・エー・ジェーを母体に、仮想空間サービス提供を目的に設立されました。視覚表現に関わるプロジェクトを推進しています。

視覚表現の会社がなぜ？

視覚コミュニケーションを重視する弊社だからこそ見えない困難さの解消が重要であると考えます。私自身、いつまでも本を楽しみたいと思います。

※オマケ 好きな作家はウラジミール・ナボコフ



では、ユアアイズの特徴は？

世界でも珍しい「本を読むことにこだわった」読み上げサービス

特徴① 人間の読み上げに近い、感情表現も可能な音声合成朗読！

人の朗読に近いHOYA株式会社のReadSpeakerを採用。長時間の朗読にも聞いていて疲れません。3人のボイスキャラクターから話者を選択可能です。

特徴② ボランティアツールによる本の正しい読み上げ！

ボランティア向けの本の読み間違いを無くす為のツールをご用意しています。読書が困難な方と、そうした方の力になりたい方をつなげます。

特徴③ 国内最大の書誌情報サービスと連携した本の特定！

書籍の表紙や裏表紙を撮影する事で、その書籍を特定。タイトルや著者名、本の概要を表示します。また、表紙と裏表紙の撮影で、本の上下や表裏を認識し、目の不自由な方に正しい本の向きを伝えることもできます。

※ISBNコードで本を特定しなくても読み上げは可能です。



ユアアイズの著作権についての考え方

前述のように本を読むのが困難な方向けのサービスですがさらに、

『YourEyes』は読み上げサービスです。

利用者が必ず手元に本を持っていることが大前提になっています。不正な利用を防ぐように、大量のページを音声データに変えて、本無しで持ち歩くことはできないようになっています。

ボランティアツールに関して

手元に本を持たない利用者がボランティアによる学習データを使えないように、何重もの確認を行なっています。



それでは ユアアイズを実演してみましよう

※視覚に障がいのある方は
iOSのボイスオーバー機能をお使いになるのですが
本日は通常モードでデモいたします。